

令和6年度 授業創造プラン

5年

日野市立滝合小学校

教科	児童の実態（学力調査を含む）	具体的な取組
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語・情報・言語文化」では、市の平均は超えているものの、漢字や言葉の意味や使い方に苦手意識をもっている児童が多い。また、普段から既習の漢字を使おうとする意識にも差がある。 （総合学力調査平均得点率：70.2%） ・「話すこと・聞くこと」では、市の平均を下回っており、目的や相手の意図を読み取りながら聞くことが苦手な児童が多い。授業等での話し合い活動では、話し合いに積極的に参加する児童が多い一方で、消極的な児童も多くいるなど、取り組む姿勢への差が大きく見られる。（総合学力調査平均得点率：72.1%） ・「読むこと」については、内容理解に個人差がある。また、全体的に、進んで読書をしたり、分からない言葉を辞書やインターネットなどを活用して調べて解決したりしようとする意識は低い。 （総合学力調査平均得点率：43.9%） （わからない言葉を辞書で調べる児童の割合：39.4%） ・「書くこと」については、自分の考えをもつことはできるが、それを言葉や文章で適切に表現することが苦手な児童が多い。そのため、テストの文章問題で空欄のまま提出する児童も多い。 （総合学力調査平均正答率 34.9%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習や家庭学習などで進んで漢字を使うよう声を掛けていき、漢字を使おうとする意識を高めていく。また、授業では言葉の意味を確かめながら進めていき、語彙力を高めていく。 ・「どちらを選びますか」「よりよい学校生活のために」を学習を通して、対話の仕方を確かめ、目的や意図を理解しながら、相手の話を聞いたり、自分の考えを話したりするように指導する。 ・「たずねびと」の物語文や「固有種が教えてくれること」の説明文などの学習を通して、登場人物の言動に注目しながら内容の読み取りを進めるとともに、クロームブックを活用するなどして言葉調べの時間を確保し語彙力を高めていく。 ・物語文や説明文を読み取る際には作者の意図を理解しながら読み進めていくようにする。自分の考えを表現する場面では、根拠を明確にし、適切に表すことができるように、具体的な例を示したり、構成を考えさせたりしながら指導する。

令和6年度 授業創造プラン

<p>算数科</p>	<ul style="list-style-type: none">・「数と計算」については市の平均を下回っており、かけ算やわり算の計算や大きな数への理解が十分ではなく、計算することに時間が掛かる児童も多い。 (総合学力調査平均得点率：58.8%)・「図形」では、分度器を正確に活用して測定する作業や、定規やコンパスを活用して図形を描く作業に苦手意識のある児童がいる。また、平行や垂直などの図形に関する語句の意味を理解していない児童も多い。(総合学力調査平均得点率：56.3%)・立式に至った根拠や過程を説明したり、資料を活用して問いに答えたりすることに苦手意識がある児童が多い。 (総合学力調査平均得点率：49.3%)	<ul style="list-style-type: none">・「5年のふくしゅう」の単元で、これまで学習した四則計算について復習するとともに、クロームブックでミライシードなどを活用し、理解を深め、技能の定着を目指していく。・「正多角形と円周の長さ」や「角柱と円柱」の単元で、様々な図形の性質を理解するとともに、作図や展開図に必要な用具を用いて正しく描く技能の習得を目指していく。・「平均」や「割合」、「変わり方調べ」の単元では、問題や資料から必要な情報を選択し、問いに対して正しく立式することができるよう、繰り返し問題に取り組み、理解を深めていく。また、算数で扱う用語を適切に使ったり、根拠を明確にして伝えたりしながら自らの考えを説明することができるようにしていく。
------------	--	---